

事例 フリールーム（不登校児童通所施設）

小野田陽光園（山口県） 〒756-0803 山口県小野田市大字小野田6111番地の28 TEL 0836-83-4595

活動の概要

市内唯一の社会福祉法人の児童養護施設内に所在する相談室として、その独自性を生かして幅広く機能していく立場にあると考えられます。

相談の受け入れ対象は市内児童生徒およびその家族を中心としていますが、必要に応じて高校生以上、アフタケアも含めて枠を広げた長期のかかわりを続けています。

対応児童生徒の実情に応じて聴覚、視覚など五感を通じた体験行動をとり入れた相談活動を行い自立への支援を行っています。

法人の概要

施設園内の一角に2部屋10坪余りの部屋を「フリールーム」相談室として平成7年4月に開設されました。開設の背景には当時在園していた一園生の「学校へ行けなくても同世代の仲間を求めあう心はみんなもっている」という趣旨の言葉が一つの動機づけとなり開設につながったものと言えます。

所在場所、周辺の条件を考える時、図書館、児童館、公民館など公共施設に恵まれ、相談活動の発展的な活用場として効果的な活用場としてとり入れています。

地域住民との適宜な声かけ、ふれあいの導入も可能であり柔軟に体験を広げることができま

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…109,293千円
- 主な経営施設
児童養護施設 昭和32年設立 定員30名

活動の内容

- 活動対象者…市内小中学校児童生徒、親、家族
- 活動の頻度…（ケースによる）週1回～3回 1時間～2時間
- 年間延利用者数…（来室）279名
- 活動開始年…平成7年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

子どもが心のよりどころとする場として、いわゆる不登校児の対応の相談室として、スタートしたのですが、不登校問題もその背景が複雑化したことに伴い、対応の対象も広がり、親、家族をも含めた相談が大きなポイントになってきています。

対象となる子どもの実情に応じて、ふれあいトーク、ティータイム、遊々タイム、屋外への散策、学ぶ雰囲気づくりなど対話と活動の選択を折りこんだ対応を行って生活習慣の改善、自立支援、学校復帰へ向けて支援を行っています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

平成7年度、園単独でこの事業を開始。平成8年度より小野田市より「青少年対策業務」委託事業と認められ144万円の補助金がつきました。平成9年度より山口県の地域家庭養育支援

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

事業を小野田市が実施主体になり、194万円の補助金となりました。

小野田市との深い連携のもと活動を行っており、フリールームの職員も小野田市の青少年校外補導員を経たものを雇用しています。

■利用者の声、地域の反応

市教育委員会設置の相談機関、学校関係者との連携、児童民生委員など福祉関係機関との連携、交流の場を持ち研修の機会も設定しています。研修の交流については市内小中学校生徒指導担当、相談担当、養護教諭などとも連携を図りながら相談室としてのフリールームの効果的な利用について発信し、なげかけを行っています。

また、来室相談者の親同士の交流の機会を設定し、相互に交流しあう中で悩みを話しあい、学びあう場として効果的です。しかしここにつながるまでの条件が揃うことがなかなか難しい面もあります。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

子どもとの相談活動を進めていく中で一番大きな課題となるのは、親、家族とのかかわりです。親の変容がより大きく子どもを支えることになるのですが、一番困難な課題です。親への支援、親の自覚をどう促していくか、地域の力起こしが望まれるところです。